

児童生徒の視野を広め、思考を深め、 夢を与えられる教師に

NPO全国・海外子女教育・国際理解教育・研究協議会会長

たき たが お
滝 多賀雄



早いもので、金融業から転身し、教育界に身を投じた初年度から、かれこれ40数年になりました。その間、日本語の理解できない児童を我が学級に迎え入れ、その対応に追われたり、新型コロナ感染予防で派遣されない派遣予定者に対応したりと、帰国子女（海外生活経験児童生徒）教育に携わってきました。

日本国内の教員が、90都市94校の日本人学校と、216校中41校の日本語補習授業校に派遣されています。今年は、新型コロナウイルスの影響で、まだ全員の派遣ができずにいます。4月6日に一陣として派遣された2か国4校中1か国3校では到着後即ロックダウンとなりました。外出禁止令の中、生活もままなくなったり、校長のみのVISAしか発行されないところがあったり、現地到着12時間経過後に隔離を実行する国があったりするなど、各国で対応に苦慮している様子です。

このような中、NPO全国・海外子女教育・国際理解教育・研究協議会（略称：全海研）は、派遣教員が日本と違った自然環境、教育施設環境の中でも日本と同じ教育をすることができるよう、各教科での指導上の留意点をまとめた「ガイドブック」を作成し、配布を行ってきました。

教科書改訂の際には、「全海研」は、文部科学省から作成を請け負い、スタッフの派遣教員経験を生かし、補習校カリキュラムの作成を行ってきました。今年度は、日本語補習授業校の先生方に簡単に指導事項を把握して頂くために、小学校教科書国語科の指導書を

作成しました。補習校で働く現地採用教員の方々には、日本での教員経験が少ないものの、留学経験があり、修士号、博士号を有し、その地で長期間生活し、知的面等では申し分ない現地採用教員の方が多くいらっしゃいます。そのような方が、短時間で分かるように指導案を工夫し、豊富な知識や、現地での経験が生かせるよう作成しました。

一口に補習校と言っても、設立の経緯やそこで働く人は様々です。デンマーク・コペンハーゲン校では、スウェーデンから国境を越えて教えに来ている方がいました。また、アメリカには、大学で日本語を教える教授が校長をしている補習校。カナダには、国家の勲章を拝受した大学教授や、地元国立大学名誉教授が校長をしている補習校もありました。さらには、地元の方と結婚し、教育には素人であるものの、自分たちの子供に日本語教育をしようと立ち上がり、補習校を立ち上げた所もあります。テヘラン補習校は、日本へ留学してくる生徒も生み出しています。どの学校も素晴らしい人材に恵まれています。

また、通訳などをしてくれているアブダビの現地採用教員の方をはじめ、日本人学校も日本語補習授業校も、多くの日本以外の方々の貴重な貢献に支えられています。

私は、在外教育施設の現地採用の職員は、どこに行っても愛嬌があり、人間性が素晴らしい方々であると感じています。現地に行った際は、必ず現地採用職員に話しかけてみます。そうすると皆さん、いろいろ話をしてく



れ、素晴らしい人間性をもつ方々であることを実感します。日系人が多くいる地域の教育施設の中には、日本食を作ることができる方もおり、納豆、豆腐等を作っていただいているところもあります。

若干ではありますが、派遣教員の負の面として、職種によって分け隔てて見る方がいるように感じます。それも、自分より学歴が遙かに高い方にも、現地採用教員というだけで、見下している派遣教員が存在することは、残念に思います。

さて、派遣教員が帰国してからのことを話したいと思います。多くの教員は、在籍する学校を中心に、自分の派遣経験を中心にして児童生徒への「視野を広げる」「思考を深める」ための教育を実践し、さらに、国際理解教育を推進しています。

そのサポートとして、「全海研」は、教員の話題を豊富にし、児童生徒が待ちわびる姿勢を維持できるよう、教員がネタ切れにならないよう、多くの題材を提供するため、世界各地での小話を集めた国際理解教育教本を作成中です。

派遣教員には、自分で課題を見つけ、探究してきた方が多く、中には、派遣地での植物の植生、昆虫の生態など観察してきた方々もいます。また、多くの博物館、美術館を来訪した方や、さらに、一般的に知られている事柄の確認や、一般的には来訪できないところにも出かけ、いろいろなつながりを大事にして調べた方などがいます。これらの貴重な経験を、今後どのように一般化して、教員が使用できるようにするのも、「全海研」の今後の課題として残っております。

次に、素晴らしい教育を施された児童生徒がどう成長し、社会に貢献しているのかも、知っていただきたいと思います。

以前千葉県知事をした堂本さんは昭和初期のいわゆる「帰国子女」であり、メディアの世界から政界に進出して活躍されました。また、現在国会議員として活躍されている方の中にも「帰国子女」の方がいらっしゃいます。科学分野では、宇宙開発機構JAXAでも、多くの方々が活躍されています。グローバルな視野を生かし、世界銀行、アジア開発銀行、さらには国連等で活躍している方もいます。若いうちから、海外の様々な人や文化等にふれ、視野や思考を広めたことで、活躍できる分野も広がっていくように感じます。

私の教師時代に接してきた方々から、世界各地で声を掛けられ、ビックリすることも度々あります。

ワシントン・ダレス空港で、飛行機乗り換えのために空港内バスに乗った瞬間に「滝先生」と呼びかけられました。フランス・リヨンでは、補習校巡回の折、駅に迎えに来た理事の方の一声が「滝先生、お久しぶりです」でした。さらにロンドン日本人学校では、保護者から「その折は、お世話になりました」と声をかけられたりもしました。

また、数年の海外生活で、私の小さな「夢・希望」の話を聞いた生徒が、目標を医師に定め、日本に帰国してから、中学3年で英検一級を取得し、医学部に進学し、医師になった方もいます。それぞれが活躍している姿に、嬉しくなりました。

教師時代に、私は実現不可能と思われることでも大きな夢として語ってきました。その話を聞いた生徒たちが、自分の大きな夢につなげ、少しでも実現しようと頑張ってきたということを聞くと、児童生徒に「夢・希望」を与えられる話のできる教師に成長していくことの大切さを痛感している今日この頃です。